

世界旅打ち気分

●第76回・バララットのサラブレッドとハーネス

須田鷹雄



写真3) バララットのハーネス、レース風景



写真2) バララットの坂路コース風景



写真1) バララットのオールウェザー開催

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

アーストラリアの競馬場はバララットと呼ばれる。これはオーストラリアのビクトリア州にあるバララットの競馬場が別々な場所にある。まずはサラブレッドのほうから紹介しよう。

オーストラリアの競馬はメトロプロヴィンシャル・カントリー・ピニックというカテゴリーに分類されるが、ビクトリア州はプロヴィンシャルという分類を用いていない。

しかし最近減量騎手の実績をカウントするために「実質プロヴィンシャル」という競馬場が指定され、バララットの芝レースはそこに入っている。ちなみにバララットにはオールウェザー(ポリトラック)のコースもあるし、障害レースも行われる。

つまりオーストラリア基準だと「それなりの競馬場」といふことになるが、スタンドなどの施設はそれほど大きくない。というか、オーストラリアは一部のメトロ場にしか「大きいスタンド」というものはない。

にある街だ。

ハーネスの競馬場はサラブレッドの競馬場とは全く別な場所車で20分ほどのところにある。街の中心部から近いといふことではハーネスのほうが便利な場所になり、競馬場の外はもうすぐに住宅地である。

このハーネス場は、グレイハウンド(ドッグレース)の「ース」と同じ敷地内にある。オーストラリアではサラブレッド・ハーネス・グレイハウンドの3つが揃っていると「立派な地方都市」という感じがするのだが、ハーネスとドッグレースが隣接しているケースはわりと多いように思う。ビクトリアのそれなりに大きい地方都市といふことだとジロングもハーネスとグレイハウンドが隣同士にある。

サラブレッドとグレイハウンドが隣同士といふケースはあまり思

い浮かないもので、なにか歴史的な理由があるのでないかと思う。

サラブレッドのほうもハーネスのほうも競馬場のスタンド自体はわりと古いのだが、サラブレッドのはうは青、グレイハウンドのほうはグレーを基調にした色で綺麗に塗ら

れており、古さや廃れた印象を感じさせない。こういったあたりは外のほうが上手いなという感じがする。

ハーネスの「ース」は一周1000mで、直線は248m。オーストラリアのハーネスは一周半マイルのところもあるが1000m前後のところも多いので、標準的な周長という感じ。ただ直線はかなり長い部類に入るので、レースの終盤は熱い戦いになる。

来場者は「これは他のハーネス場やグレイハウンド場と同じく、老人が多い。日本の競輪場と同じようにファンの高齢化が進んでいる。ただ海外のレース場は地域で来ている家族などもあり、元密着な部分もあるので、親子3世代で来ている家族などもあり、子供たちが将来もハーネスに興味を持ち続けてくれることを祈りたくなる。

ただ、「このパスタを食べるためにはスタンドは2階立てで、1階はない」というが、バンバーガーなどを売る売店と、ほとんど客がない椅子・テーブルが並ぶだけ。スタンドの表側に回るとベンチ群があり、レース間近になるとファンが集まってくれる。

2階にはパーティ用のスペースがある。

坂路「ースは前半の平地部分がかなり長く、坂路部分も日本ほど斜度ではないが、それでもオーストラリアで坂路があるのは貴重だ。施設が充実していることもあって、プロヴィンシャル場であっても主でも貰える)保有者のみが使えるテーブルがある。馬主力ードがあると「ヒーヒーが無料だたりするのだが、そういうささやかなベネフィットが用意されているのもオーストラリアの典型的な競馬場といふ感じだ。

パドック(マウンティングヤード)

馬場やクランボルン競馬場などと

一スもある。

パドックのスタンドは門別競

馬場の古いほうのスタンドを2階建てにしたくらいの規模だが、端のほうには競馬場メンバーのみのパーキングがある。ビクトリアで坂路

のほうには競馬場メンバーのみの

パークができる程度のスペース

が用意されている。それとは別に一般利用者も使えるテーブルと、馬主力ード(2.5%のみの共有馬のほうには競馬場メンバーのみの

パークができる程度のスペース

が用意されている。それとは別に

馬主力ード(2.5%のみの共有馬のほうには競馬場メンバーのみの

パークができる程度のスペース

が用意されている。それとは別に

馬主力